

Correct (正確に)

テクニカルドキュメンテーションII

2025.04.19 Kenichi Wakabayashi

(1) Correctのテクニック

技術文書の英文の主な誤りには以下のようなものがあります：

- (a) 文法の誤り
- (b) 用語や表現の誤り
- (c) 直訳による誤り
- (d) 表記（句読点・略語・数の表記）の誤り
- (e) スペルや数値の誤記

(a) 文法の誤り

▶ 英文法の基礎を総復習し、加えて技術文書における英文ライティングの文法を身につける

英文法は技術文書を英語で書く基盤となるため非常に重要です。

英語には主語と動詞が必要という決まりごとから始め、まずは中学レベルを中心とした文法の復習をしましょう。

数をこなせば、ルールが見えてくる。

(b) 用語や表現の誤り

▶ 複数の辞書とインターネット検索で調べる

複数の英和・和英・英英辞書を使って、単語の意味や用法を調べる。

ブラウザ搭載の自動翻訳は使わない、必ず元の英語をみて辞書や翻訳ツールを使う。

▶ 固有名詞は公式サイトで確認

一般的に使われている言葉や表現が正しくないことはよくある。

固有名詞（社名、商品名、人名など）は必ず公式サイトを確認すること。

スマートフォンのアイフォンをカタカナと英語で書くと？

翻訳ツール：

- [Google翻訳](#)
- [deepL](#)

オンライン辞書：

- [Oxford Advanced American Dictionary](#)
- [Merriam-Webster](#)
- [Collins Dictionary](#)
- [Longman Dictionary of Contemporary English](#)

書籍など：

- ビジネス技術用英語辞典（プロジェクトポトス）
- CD-専門用語対訳集（機械・工学17万語／化学・農学11万語）

活用方法の例：

Googleで「define illuminate」のように調べると、語義や例文を確認できます。

WikipediaやYouTubeの技術解説動画も有用です。

(c) 直訳による誤り

▶ 言葉の置き換えをやめ、意図する内容を伝える

和文の意味をそのまま英語に訳すのではなく、「意図している内容」を正確に伝えることが重要です。

例：「内容」→ contentではなく、contextに応じて「description」「information」「details」などを用いる。

(d) 表記（句読点・略語・数の表記）の誤り

▶ スタイルガイドを参照し、表記ルールを習得する

句読点、略語、数の表記には明確なルールがあります。たとえば、数字表記に関して：

「3つの領域」→ 英語では「three areas」

「3+15」→ 「3 and 15」ではなく「eighteen」と明示する

学校のレポートなどは学校指定のスタイルに従う

代表的なスタイルガイド

1. [The Chicago Manual of Style](#) (University of Chicago Press)
一般的なスタイルガイドの代表。CMSとも呼ばれる。
2. [Microsoft® Manual of Style for Technical Publications](#)
Microsoft Press発行。テクニカルライティング用。
3. [The ACS Style Guide](#) (American Chemical Society)
化学分野向け。
4. [AMA Manual of Style](#) (American Medical Association)
医学分野向け。
5. [IEEE Editorial Style Manual](#) (IEEE)
工学・電気電子分野向け。

(e) スペルや数値の誤記

▶ 最低3回のチェックを行う

完成した英文を以下のステップで3回チェックすることで、誤りを減らします：

1回目と2回目：和文と英文を見比べて、内容が正確に伝わっているか確認する。

3回目：和文を見ずに英文だけを読み、自然に読めるか、論理が通っているかを確認する。

また、印刷して確認することで、誤りがより見つけやすくなります。